

木谷地域 まちづくり計画



「豊潤の里」木谷自治協議会

1. はじめに

わたしたちの住む木谷小学校区には、685 世帯、1777 人の住民が生活しています。

山と海に囲まれた自然美豊かな地域で、温暖な気候に恵まれ、全国的に知られた馬鈴薯の生産地でもあります。また赤崎海岸からは、安芸津湾に浮かぶ 7 島や、遠く瀬戸内海の島々、さらに四国の山々まで見渡せ、景勝地としても一見の価値があります。

中世から近世にかけて発展した郷地区には、ふたつの寺院があり、室町時代の山城や江戸時代の後期、廻船業で財をなした光保(屋号元屋)家の痕跡等が残されています。独特の地形を利用した塩浜や煉瓦製造隆盛時の面影を偲ぶこともできます。現金収入を得るために、多くの杜氏さんや蔵人が、約半年の間、全国の酒蔵に出向きました。後継者は激減しましたが、今なお少数ですが健在です。

歴史と伝統の息づく我が地域にも、多くの課題があります。30 歳未満が 21%、60 歳以上が 46%の割合で、高齢化が進んでいます。少子化傾向は年々増加しつつあり、現在小学校の存続が危ぶまれています。文化の拠点であり、木谷地域の発展になくてはならない学校は、決して手放すわけにはいきません。若い人を呼び寄せる取り組み、空き家対策等、これからの最重要課題として位置づけていきたいと考えています。

全世帯で実施したアンケート調査にも表れているように、良さ(強み)を活かした環境整備、防犯・防災、さらに高齢者、子育て支援健康づくり等の要望があります。どれも大切ですが、明るく、絆と思いやりをもった安心安全なまちづくりをめざして、将来目標である「人の和を大切に、次世代へとつなげるまち 木谷」の実現に向けて、一歩ずつ前に進んでいきたいと考えております。

ここに「まちづくり計画」を策定いたしました。なによりも住民の皆様ひとり一人のご理解とご協力が大切となってまいります。母体となる住民自治協議会がより機能を発揮できますよう、皆さん自らが実践活動に積極的に係って下さいますようお願いいたします。

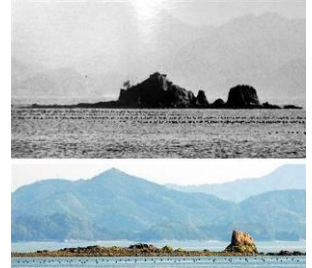
平成25年3月

木谷自治協議会

2. 木谷地域の概要

里の地形

安芸津町の東部に位置し、竹原市(吉名)と隣接している。北側遠方の包山(515.9m)、近くは野山(491.8m)に囲まれ、三畝川と合流した木谷郷川(延長 3850m)が流れ下っている。三つの地区(西之谷・郷・赤崎)がある。特に赤崎地区は、基盤石の深層風化が進み、鉄分の酸化作用により表層は赤くなっている。海に目を転じると、鼻繰島、ホボロ島、唐船島の三島がある。なかでもホボロ島は、ナナツバコツブムシの浸食作用の影響もあって、より風化が急速に進んでいる。



歴史の里

西之谷の林越で、弥生時代中期と見られる磨製石斧が発見された。これにより弥生時代の生活が立証されたことになる。さらに赤崎海岸の海底から、6世紀末から7世紀初頭の横瓶が引き上げられた。船で運搬中に落としたものであろうが、海上交通が盛んであったことが裏づけられた。



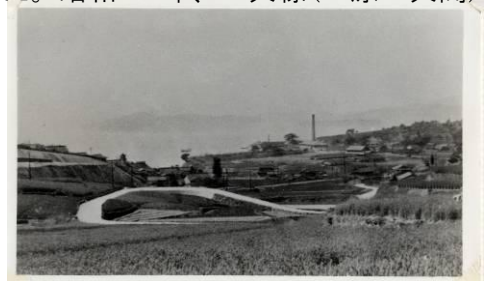
室町時代の末期には、見回り警護や住民自主防衛のための山城(市子・尾首・重信・赤崎)が存在していた。郷地区は宗派の異なる二つの寺院(妙専寺・慶寿院)があり、木谷村と称していたころ、村役場は光保家(屋号元屋)の屋敷内に

おかれていた。その後重松神社の隣、さらに合併して安芸津町となってからは木谷出張所として保育所の敷地内にあった。木谷地域センターは東公民館としてその役割を果たした。



交通

芸藩通志の絵図によると、重信城を基点に東には仁賀及び在屋に至る道、北には伏尾、正司畑を経て、仁賀に至る道、西には西之谷上条から隠畑、印内から松尾城に続く道があったと考えられる。南側には、防地から吉名に続く道もあった。昭和10年、三呉線(三原～呉間)が全線開通となり、鉄道輸送により遠出ができるようになった。昭和40年には、木谷隧道の完成により、今まで交通の難所であった県道「原の峠」線に代わり、国道185号線(2車線)を利用できるようになった。平成20年には鎌倉トンネル貫通により、市道上条・浜田線が完成し、東広島市へのアクセスが便利になった。今後は八代谷に向けての安芸津バイパスの全線開通が待たれる。



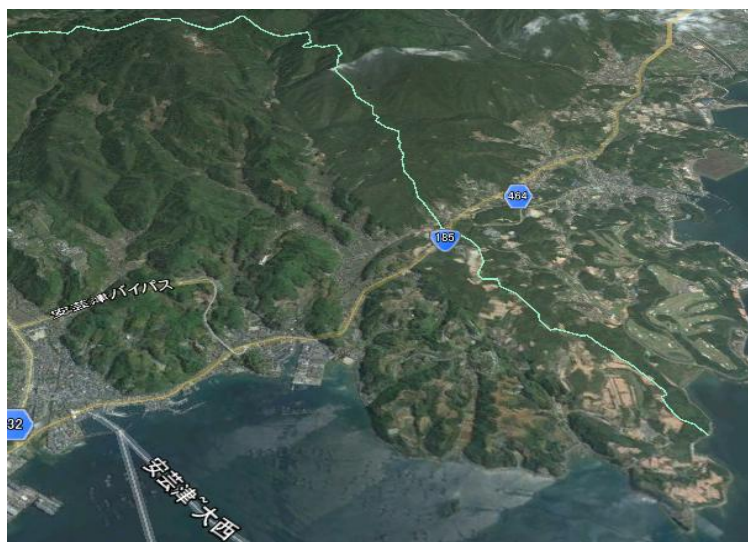
暮らし

江戸末期、文政 2 年 325 世帯・人口 1563 人(芸藩通志)。また昭和 10 年には 477 世帯・人口 3381 人(豊田郡志)であり、現在は 685 世帯・1777 人となっている。人口の減少が顕著で



ある。世帯は増加しても、人口は増えない。典型的な核家族現象である。産業としては、江戸時代から、干潟を利用しての塩田が赤崎(二馬手・本江)や西之谷(宮の浦)の三か所に築造された。幕末には、光保家(屋号元屋)が、広島藩で二番目に大きな船を有し、廻船業として財をなした。明治後期から大正、昭和にかけて煉瓦づくりが盛んに行われた。煉瓦の材料となる原土が豊富なことと、海に面していた

ために輸送(船舶)も便利であった。しかし、時代の変遷とともに衰退を極め、いずれも廃業に至った。馬鈴薯の栽培は明治後期より始まり、現在暖地二期作が行われている。昭和 43 年、海を埋め立てて造成した工業団地に 8 社が進出したが、現在 6 社が操業している。地区ごとに商店はあったが、現在は人口の減少や大型スーパー等の進出により、食料品店は消滅した。



3. 年齢別人口

2012（平成24）年3月

東広島市全体

住民基本台帳

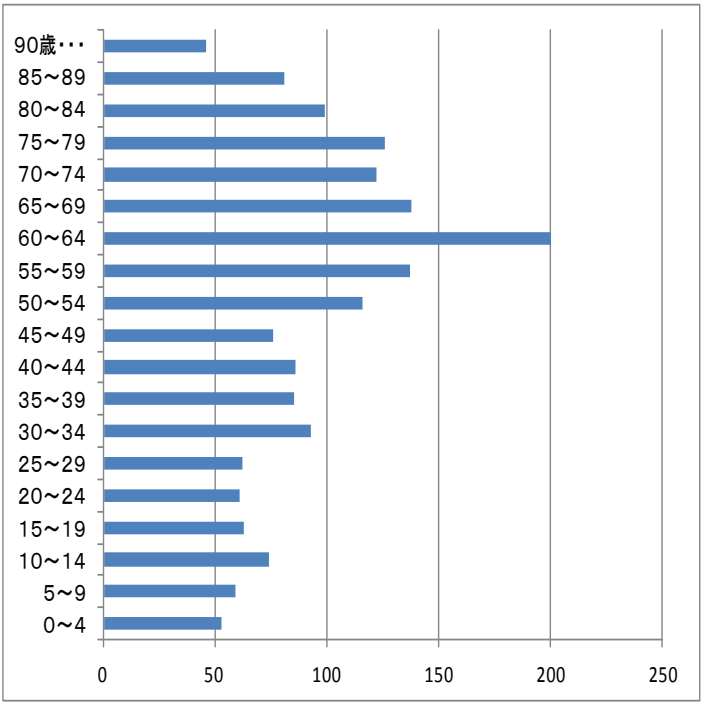
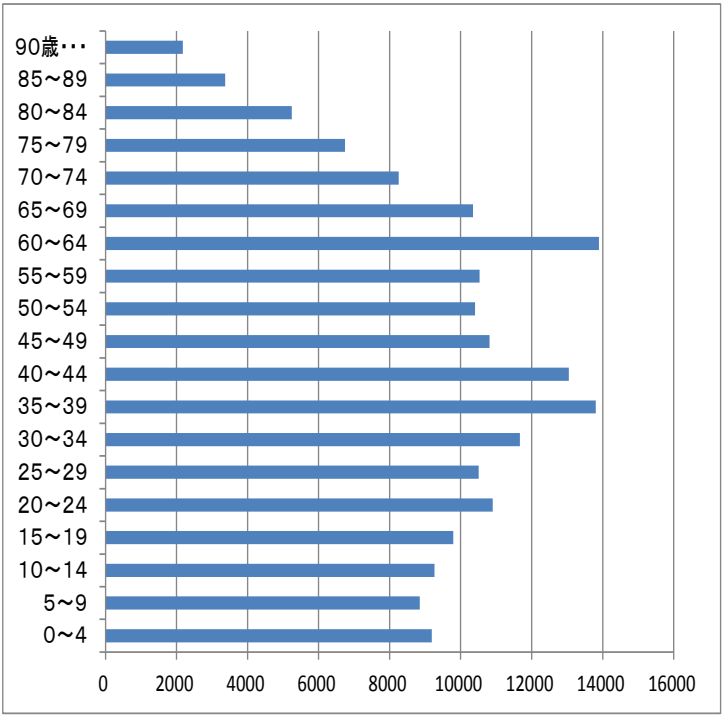
年齢	男	女	総数	比率
90～	479	1,698	2,177	1.2%
85～89	1,030	2,337	3,367	1.9%
80～84	2,043	3,199	5,242	2.9%
75～79	2,985	3,759	6,744	3.8%
70～74	3,976	4,278	8,254	4.6%
65～69	5,119	5,229	10,348	5.8%
60～64	6,837	7,058	13,895	7.8%
55～59	5,264	5,267	10,531	5.9%
50～54	5,189	5,219	10,408	5.8%
45～49	5,515	5,297	10,812	6.0%
40～44	6,756	6,293	13,049	7.3%
35～39	7,176	6,629	13,805	7.7%
30～34	6,166	5,505	11,671	6.5%
25～29	5,645	4,864	10,509	5.9%
20～24	6,026	4,876	10,902	6.1%
15～19	5,159	4,631	9,790	5.5%
10～14	4,721	4,541	9,262	5.2%
5～9	4,553	4,294	8,847	4.9%
0～4	4,683	4,506	9,189	5.1%
合計	89,322	41,870	131,192	100.0%

世帯数：74,937

木谷全体

年齢	男	女	総数	比率
90～			46	2.6%
85～89			81	4.6%
80～84			99	5.6%
75～79			126	7.1%
70～74			122	6.9%
65～69			138	7.8%
60～64			200	11.3%
55～59			137	7.7%
50～54			116	6.5%
45～49			76	4.3%
40～44			86	4.8%
35～39			85	4.8%
30～34			93	5.2%
25～29			62	3.5%
20～24			61	3.4%
15～19			63	3.5%
10～14			74	4.2%
5～9			59	3.3%
0～4			53	3.0%
合計	859	918	1,777	100.0%

世帯数：685



人口：人

2012（平成24）年統計でみる東広島市より



目 次

- 1. 木谷自治協議会 設立の経緯・・・・・・・・・・ 1
- 2. まちづくりアンケート・・・・・・・・・・ 7
- 3. ワークショップ・・・・・・・・・・ 8
- 4. 将来目標とテーマ・・・・・・・・・・ 9
- 5. 事業計画・・・・・・・・・・ 10
- 6. 実施スケジュール・・・・・・・・・・ 17
- 7. 組織体制・・・・・・・・・・ 18
- 8. 役員名簿・・・・・・・・・・ 19、20

1 木谷自治協議会 設立の経緯

◆木谷自治会発足から、住民自治協議会準備会設立まで

平成17年(2005)2月7日、安芸津町は東広島市へ編入合併しました。それに伴い、今までの安芸津町時代の地域組織・諸団体を整理、改革していく必要が生じてきました。東広島市では、将来的に、小学校区を単位とした住民自治組織づくりを推進していく方針があることを知りました。

木谷地域においても、区長会を母体とし、かつ諸団体と連携しながら、総会を開催し、平成18年4月29日に「木谷自治会」を立ち上げました。当初会費は1世帯当たり200円とし、他に市からの「まちづくり推進事業補助金」(平成19年度～24年度まで継続)や寄付金等で事業・行事等に携わりました。※資料①(P4)参照 その後、平成23年度より会費を500円に値上げしました。

平成21年に東広島市企画部企画課の主催による「ひがしひろしま協働のまちづくりトークIN木谷」及び「集落点検」が開催されました。※資料②(P5)参照



まちづくりトークIN木谷の様子

地域コミュニティの課題・問題点の抽出(まちづくりトーク参加者意見)

分類	内容
ひと	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢化、高齢者が多い。 ・若い人が減っている。 ・後継者不足、後継者が見つからない。 ・行政職員が地域を育てる。 ・特定の人が活動せざるを得ない。若い人も頑張っているが、組織への参加は十分とは言えない。 ・福祉活動が活発
もの	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の使用方法。 ・公民館について、自由に使用させてほしい。申請が3ヶ月前。食事もしたい。 ・各グループが持ち味を発揮する施設。 ・道路整備。 ・交通が不便。 ・自動車がないと困る。 ・道路がせまい。 ・小学校統合問題。 ・農協、お店、医者等がなくなってきた。 ・高齢者が多く、農業への展望ができず、田畑の荒れもでている。
しくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館活動が地域実態に即していない。 ・自治会を動かすようにする。 ・運営を充実する。 ・住民の声を収集する仕組みが整っていない。 ・高齢者の支援(病気等)体制がない。 ・新しいものを創造する時には、時間と費用がかかる。 ・木谷地区独自の伝統行事や特色ある活動は活発に行われている。
財源	<ul style="list-style-type: none"> ・財源(補助金)の確保 ・地域活動のできる財源を行政が用意する。 ・活動が軌道に乗るまでの財源が必要。軌道に乗れば補助は必要なくなる。 ・公民館の使用料が高い。 ・現在ある団体の維持活動費は集めている。 ・環境整備地区を特定し、集中的に改善を図る(あく水、溝掃除、排水路)

参加者の意見(住民の願い)を検討する中で、将来に向けて「まちづくり計画」を作成し、解決策を見出す必要性を強く意識するようになりました。

そのためには、まずは、地域住民の皆さんに、もっと自分の地域を知ってもらい、そしてより親睦を深めてもらうことから始めようということになり、翌年より、独自に「まちづくり実行委員会」を立ち上げ、「協働のまちづくり活動応援補助金」(平成22年度～24年度まで継続)を活用して、イベントを開催していきました。※資料③(P6)参照



上写真：ふれあい文化祭



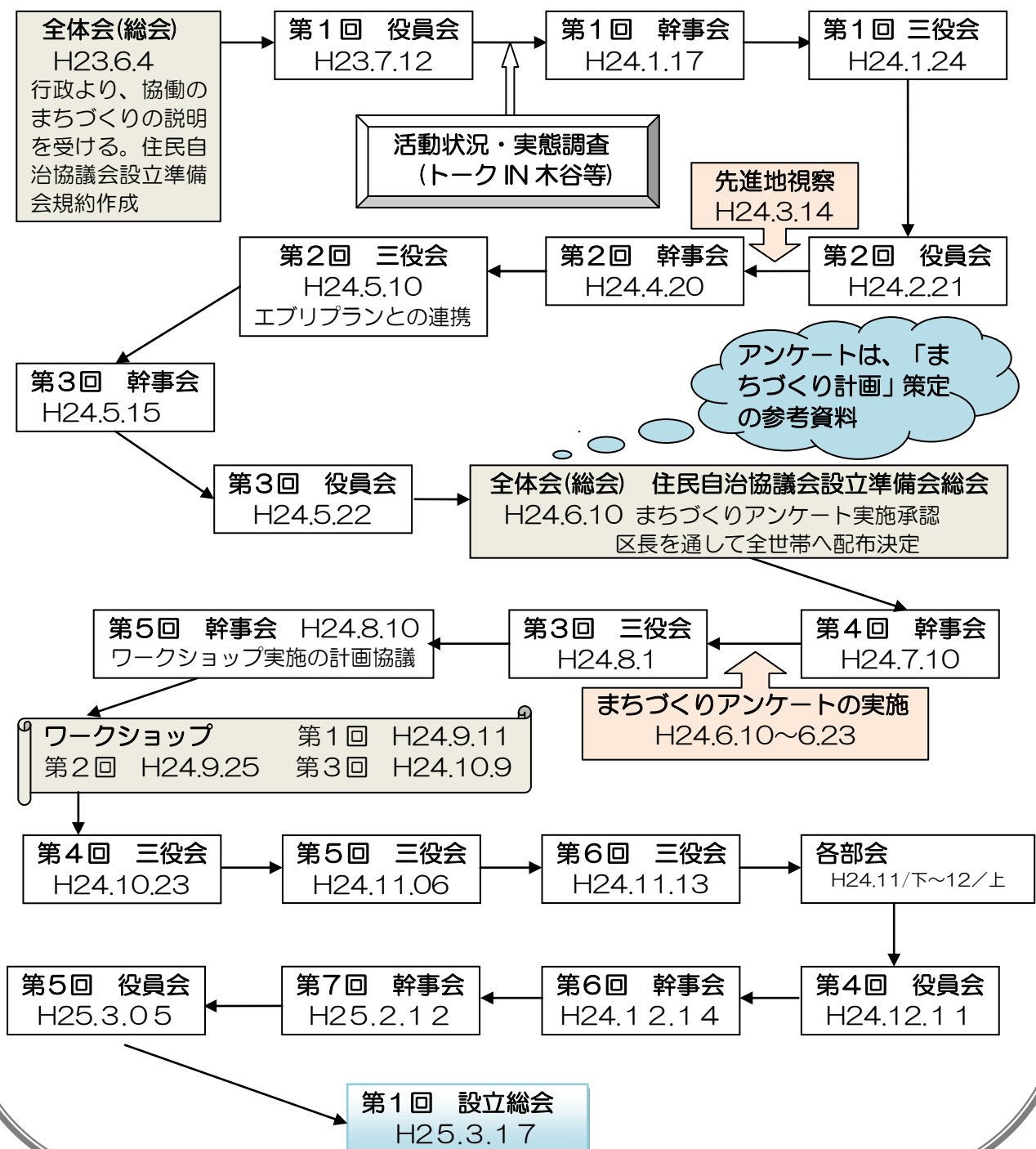
下写真：赤崎探訪ウォーキング



◆木谷住民自治協議会設立までの経緯

住民の関心が徐々に高まっていく手ごたえを感じ始めた頃、平成23年6月4日に開催した第5回自治会総会において、市の地域政策課より「協働のまちづくりの観点」「住民自治協議会の設立」「まちづくり計画の策定」について講演をして頂き、住民への啓発活動を行いました。その後、以下に示しているような方法・手段にて、手づくりの「まちづくり計画」作成に取り組み、平成25年3月17日(日)木谷住民自治協議会総会を開催することができました。

住民自治協議会準備会立ち上げから設立までの活動



資料①

木谷自治会主催の行事一覧（まちづくり推進事業補助金関係）

年 月 日	行 事 内 容	補助金等
平成 19 年 1 月 14 日	○木谷地域自治会設立（平成 18 年 4 月 29 日） ○第 1 回設立総会記念イベント ・講演会「近世の海運業」（木谷元屋の活躍）歴史のおもしろさを学ぼう 講師：広島大学総合科学部 教授 佐竹 昭先生 200 名参加	・まちづくり推進事業補助金 ・自治会会費より補助 ・学校より補助
平成 20 年 1 月 19 日	○ふれあいコンサート集会 ・木谷小学校 6 年生による「蛟龍太鼓」の演奏 ・オペラ音楽鑑賞会 木谷小学校卒業生の折河 宏治（プロのバリトン歌手）氏の演奏会 300 名参加	・まちづくり推進事業補助金 ・寿大学、女性会、社協蚊龍、防犯組合より補助
平成 22 年 1 月 23 日	○ものづくりふれあい集会・・・その後毎年継続行事 ・昔から伝わる地域文化の話を聞いたり、一緒に活動したりする体験学習を通して、文化の継承と交流を深める。（竹細工・おじゃみ・お茶席など） 150 名参加 ※木谷自治会ユニホーム（30 着）装備	・まちづくり推進事業補助金 ・自治会会費より一部補助
平成 23 年 1 月 16 日	○木谷地域自主防災訓練・・・その後毎年継続行事 ・安芸灘を震源として地震が発生し、安芸津町は震度 6 を観測。家屋の倒壊、火災の発生、津波の発生を想定して総合防災訓練を実施した。寒さ厳しい中を 200 名の参加 ※防災必需品の追加購入（ヘルメット等）	・まちづくり推進事業補助金 ・自治会からの資金援助
平成 23 年 11 月 26 日	○木谷地域遺跡・歴史文化のマップの制作 ・赤崎探訪ウォーキング及び展示の行事に合わせてマップを制作した。木谷地域全世帯並びに町内公共施設・ウォーキング参加者へも配布した。 ※1500 部印刷製本	・まちづくり推進事業補助金 ・自治会からの資金援助
平成 25 年 2 月 17 日	○木谷地域避難訓練（木谷自主防災組織と共催） ・南海トラフを想定し、震災並びに 3 メートルの津波に対応するための避難場所の確保を各区ごとに設定する。その後、木谷小学校に集合し、高齢者や子ども達への配慮等研修を深める。 300 名参加 ※携帯用マイク等の備品購入 炊き出しの材料	・まちづくり推進事業補助金 ・自治会からの資金援助

「ひがしひろしま協働のまちづくりトーク IN 木谷」の開催

- 1 目的：木谷地域の実態や活動内容等の把握に努め、地域コミュニティ活動の課題・問題点並びにニーズを明らかにする。

2 開催日時・内容

- | | | |
|-----|-----------|---|
| 第1回 | オリエンテーション | ①市行政からの説明
②地域力診断・ヒアリング
③ 地区内の課題・問題点の抽出
<u>平成 21 年 4 月 10 日(金) 18:30～20:30 東公民館、研修室ほか</u> |
| 第2回 | 第1回集落点検 | ①木谷の3地区(西之谷・郷・赤崎)ごとに分かれてのワークショップ
<u>平成 21 年 5 月 20 日(水) 18:30～20:30 東公民館、研修室ほか</u> |
| 第3回 | 第2回集落点検 | ①木谷の3地区ごとにまち歩き。意見交換 MAP づくり
<u>平成 21 年 5 月 30 日(土) 9:00～12:00 3地区ごとのまち歩き。</u>
意見交換は東公民館、研修室ほか |
| 第4回 | 第3回集落点検 | ①木谷の3地区ごとにワークショップ(とりまとめ)
<u>平成 21 年 6 月 3 日(水) 18:30～20:30 東公民館、研修室ほか</u> |

3 トークメンバー

自治会、区長会、社会福祉協議会、消防団、女性会、青少年育成市民会議
木谷小学校、子ども会育成会、防犯組合、PTA(小・中)、交通安全協会
東広島市地域政策課、株式会社エブリプラン、財団法人広島県環境保健協会
総勢37名(内、木谷地域30名)

資料③

木谷自治会主催の行事一覧（協働のまちづくり活動応援補助金関係）

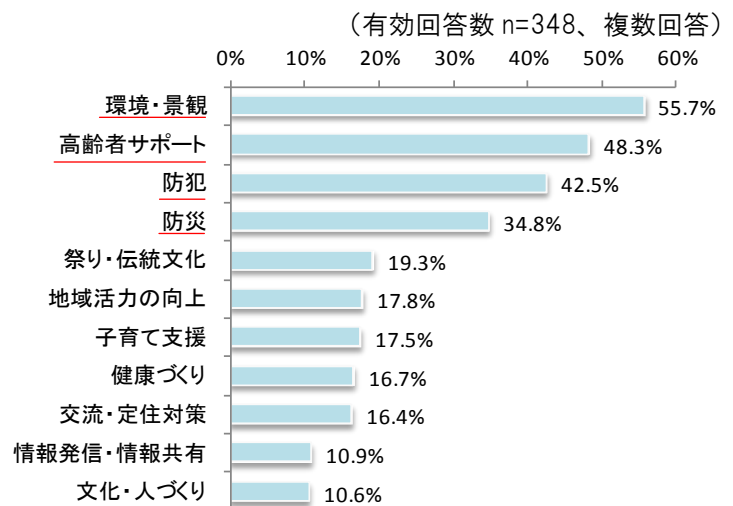
年 月 日	行 事 内 容	補助金等
平成 23 年 2月 26 日 ～27 日	○木谷地域ふれあい文化祭・・・3年後開催予定 ・作品展示（2日間）、ステージの発表、模擬店開催、木谷在住の有志による作品の数々、ユニークな木谷地域住民の皆さんによる発表、日頃の練習の成果が見られた。PTA 保護者や地区社協蛟龍の協力により模擬店も好評であった。 延べ 350 名参加	・協働のまちづくり活動応援補助金 ・自治会からの補助金 ・女性会からの補助金
平成 23 年 11 月 26 日 ～27 日	○赤崎探訪ウォーキング並びに展示会 ・赤崎を基点にした風景画等の展示 ・赤崎地区を中心として瀬戸内の海と島々の眺望、そして途中での施設見学、ジャガイモ堀り見学、昼食のカレー販売、花やジャガイモのお土産お持ち帰り等楽しいイベント。 延べ 250 名参加	・協働のまちづくり活動応援補助金 ・自治会からの補助金
平成 25 年 1 月 19 日 ～20 日	○ふれあいふるさと歴史探検並びに展示会 ・郷地区は、中世から近世に至るまで、木谷地域の中心であり、歴史的な遺跡や文化が残されている。祖先の知恵や努力の足跡をウォーキング形式で訪ねる。延べ 300 名参加	・協働のまちづくり推進事業補助金 ・自治会会費より一部補助

2 まちづくりアンケート

まちづくり計画策定にあたり、地域に住む方々のご意見を反映させるため、まちづくりに関するアンケートを平成24年6月に実施しました。

アンケートで、「今後、木谷地域で力を入れて取り組んでいったほうがよいと思われる活動に○印をつけてください」と重点テーマを聞いたところ、次の結果が得られました。地域の方々が「環境・景観」「高齢者サポート」「防犯」「防災」に関することに関心が高いことがわかりました。

項目	個数	割合
環境・景観	194	55.7%
高齢者サポート	168	48.3%
防犯	148	42.5%
防災	121	34.8%
祭り・伝統文化	67	19.3%
地域活力の向上	62	17.8%
子育て支援	61	17.5%
健康づくり	58	16.7%
交流・定住対策	57	16.4%
情報発信・情報共有	38	10.9%
文化・人づくり	37	10.6%



※複数回答のため、合計は100%になりません。

各テーマ別にも、今後、木谷地域で力に取り組んでいったほうがよいと思われる内容について聞いたところ、以下の結果となりました。

項目	1位	2位	3位
環境・景観	鳥獣害防止 (40.5%)	休耕地の活用 (31.4%)	地域ごとのクリーン作戦 (29.2%)
高齢者サポート	ひとり暮らし高齢者の見守り・訪問活動 (55.9%)	巡回バスの運行 (買い物や通院支援) (47.2%)	サロン活動の充実 (20.9%)
防犯	外灯並びに防犯灯の増設 (50.1%)	声かけ運動の推進 (34.0%)	子どもの見守り活動 (30.6%)
防災	災害時連絡網の作成 (48.8%)	防災マップの作成 (45.6%)	防災倉庫の備品の充実 (22.2%)
祭り・伝統文化	次世代への伝統行事の継承 (63.0%)	木谷マップづくりの充実・発展 (21.4%)	文化史跡や伝説等の継承 (18.6%)
地域活力の向上	特産品の開発 (44.1%)	魅力的な観光地づくり (36.0%)	バザーやリサイクル市などの開催 (31.5%)
子育て支援	放課後等の子どもの居場所づくり (44.1%)	子どもと大人たちの交流の場づくり (44.1%)	子育て支援ボランティア活動 (44.1%)
健康づくり	健康教室の開催 (43.0%)	ウォーキングモデルコースの設置 (36.7%)	木谷地域運動会の開催 (18.4%)
交流・定住対策	空き家の活用 (52.2%)	校区内への移住促進 (30.6%)	市内の他地域との交流 (28.7%)
情報発信・情報共有	地域広報紙 (自治会だより) の充実 (54.5%)	回覧板の有効活用 (42.0%)	ホームページの活用 (16.1%)
文化・人づくり	地域の人材育成 (44.1%)	老若男女の交流の場づくり (34.2%)	生涯学習の充実 (32.4%)

3 ワークショップ

まちづくりアンケートの結果をもとに、テーマ別に5つの班（教育文化班、体育振興班、福祉班、環境班、防災安全班）を作り、ワークショップを実施しました。

ワークショップとは、班ごとにテーブルを囲み、参加者が主体となって、意見交換をしながら付箋を使って計画づくりを行うやり方です。今回は、「まちづくり計画」や木谷地域の活動のアイディア出しをワークショップで行いました。

◆第1回ワークショップ（平成24年9月11日実施）

各班テーマに関連した地域の課題と強みについて意見を出しあい、グループ内で話し合ったのちに全体で発表を行いました。



◆第2回ワークショップ（平成24年9月25日実施）

第1回で出た「課題」に対して、「強み」を生かした「課題解決策のアイディア」を書き出し、班内及び全体で共有しました。また、「課題解決策のアイディア」の中から各自ベスト3を選び、班のテーマ（キャッチフレーズ）を決めました。



◆第3回ワークショップ（平成24年10月9日実施）

第2回ワークショップで出た「課題解決策のアイディア」から、取り組みたい活動を選び、各班で具体的な活動計画を考えました。



4 将来目標とテーマ

まちづくりアンケートで地域の方々からいただいた意見をもとに、将来目標を設定しました。

— 将来目標 —

人の和を大切に 次世代へとつながるまち 木谷



ワークショップで、各班に考えていただいたキーワードをもとにテーマを設定しました。

— テーマ —

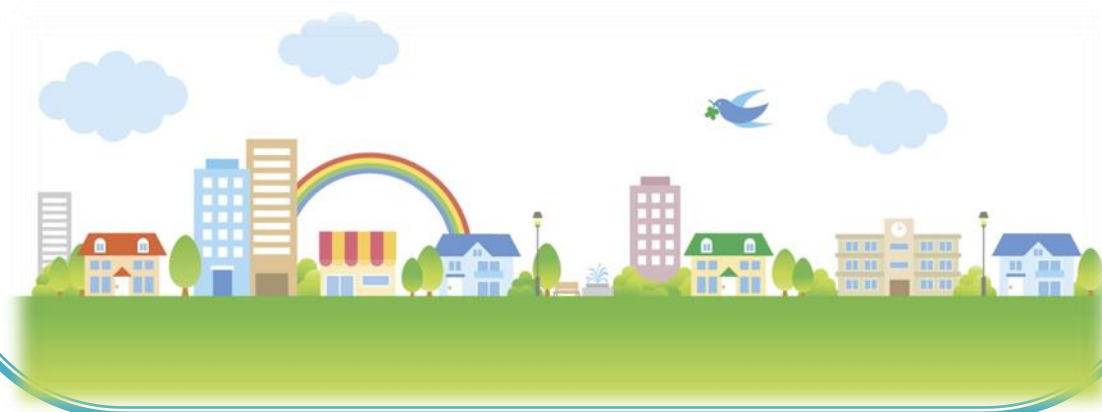
【教育文化】 地域をあげて 日本一の学校づくり

【体育振興】 健康づくり～㊦がるに ㊧れもが ㊨こにこと～

【福祉生活】 地域で育てる 地域で守る ぬくもりの郷 木谷

【環境衛生】 災害に強く 若者が住みやすいまち

【防災安全】 地域で守る 安心安全な 木谷



5 事業計画

平成 18 年に木谷自治会を設立後、木谷地域では、「まちづくりトーク（H21）」や「まちづくり推進事業補助金」を活用した事業などさまざまな事業を実施してきました。また、住民自治協議会設立準備会を発足後、「まちづくりアンケート」や「ワークショップ」を通して地域の方々から意見やアイデアをたくさんいただきました。これらの内容を準備会にて検討及び集約し、将来目標やテーマ達成に向けた今後約 5 年間の活動の指針となる事業計画を立てました。

以下、テーマ別の事業計画です。

【事業計画の表示のみかた】

◆事業名

目 標：事業の目標

内 容：事業の具体的な内容

A：住民の意識が非常に高く、最優先で実施すべき優先事業
B：住民に意識が比較的高く、優先して実施すべき事業
C：意識は高くないが、実施すべき事業

実施時期（目安）	優先順位	実施主体	財源

実施中：現在実施中

短期：概ね3年以内に着手が可能

中期：概ね3年～5年以内に着手が可能

長期：概ね5年～10年以内に着手が可能

自主：自治協議会が実施するもの

協働：行政、または他の組織との協働により実施するもの

**事業を担当する
部会名**

自己財源(自)：会費等の自己財源で実施するもの
交付金(交)：市の交付金で実施するもの

その他

【教育文化】 地域をあげて 日本一の学校づくり

◆人材バンクづくり

目 標 地域の人材発掘し地域のリーダーとなる人材を育成する。

内 容 ⇒人材登録や人材活用の仕組みについて検討し、人材バンクをつくる（マイタウンティーチャーも利用）。

⇒人材バンクを活用して、各種講座の講師やボランティアを発掘し、各部会の事業で活躍してもらう。

アンケート項目【文化・ひとづくり】の回答（1位）やワークショップの活動計画を参考にしました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体	財源
短期	A	自主 教育文化部会	交付金

◆伝統行事の充実

目 標 次世代に伝統行事を継承し、伝統行事の参加者を増やす。

内 容 ⇒木谷全体でできる行事について検討する。

(⇒できる行事があれば、実施に向けて取り組み、行事を開催する。)

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
長期	A	自主	教育文化部会	交付金

アンケート項目【祭り・伝統文化】の回答（1位）やワークショップのアイデアを参考にしました。

◆木谷小学校教育支援活動

目 標 地域をあげて木谷小学校を支援する。

内 容 ⇒文化の拠点である小学校を大切にする。

⇒小学校行事等に積極的に参加する。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
短期	A	自主	教育文化部会	その他

アンケートの自由意見やワークショップのアイデアを参考にしました。

◆教育講演会

目 標 講演会を通じた小学校との交流。

内 容 地域の卒業生や地域にゆかりのある方を講師に招いて講演会を開催する。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
実施中	A	協働	教育文化部会	自・その他

継続して実施している事業です。

◆ふるさと探索

目 標 行事を通して木谷地域のことをより深く知る。

内 容 ⇒木谷の歴史や地理などを学ぶ行事を開催する。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
実施中	A	自主	教育文化部会	自・その他 (補助金)

継続して実施している事業です。まちづくりトークやアンケート項目【祭り・伝統文化】の回答（2・3位）やワークショップのアイデアでも意見がありました。

◆ふれあい集会

目 標 さまざまな体験を通し、子どもと大人の交流を図る。

内 容 ⇒子どもたちが昔の遊びや文化を体験できる場をもつ。

⇒体験の場やふれあい集会の内容をさらに充実させる。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
実施中	A	自主	教育文化部会	自・その他

継続して実施している事業です。アンケート項目【文化・ひとづくり】の回答（2位）でも意見がありました。

【体育振興】 健康づくり～**き**がるに **た**れもが **こ**にこと～

◆健康（スポーツ）教室の開催

目 標 誰もが気軽に無理なく楽しく健康づくりに取り組む。

内 容 ⇒希望する教室を住民に調査（アンケート）する。

⇒調査結果をもとに、教室の内容検討、指導者（コーチ）を探して実施体制を整え、健康教室やスポーツ教室を開催する。

アンケート項目【健康づくり】の回答（1位）やワークショップの活動計画を参考にしました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
短期	A	自主	体育振興部会	交付金

◆ウォーキングコースの設置・PR

目 標 参加者が全員で歩けるウォーキングコースを設定し、周知する。

内 容 ⇒現場を歩いてウォーキングコースを検討し、コース整備（現在の赤崎のウォーキングコースを含め）を行う。

⇒コースの周知も含め、ウォーキング大会を開催する。

まちづくりトークやアンケート項目【健康づくり】の回答（2位）やワークショップのアイデアを参考にしました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
短期	A	自主	体育振興部会	交付金

◆木谷地域運動会

目 標 木谷地域全体での運動会を開催する。

内 容 ⇒地域全体の運動会を開催するか検討する。

（⇒開催する場合は、実施に向けて取り組む。）

アンケートの自由意見やワークショップのアイデアを参考にしました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
短期	A	自主	体育振興部会	交付金

◆市民スポーツ大会

目 標 市民スポーツ大会に積極的に参加する。

内 容 ⇒大会に参加する。

継続して実施（参加）している事業です。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
実施中	A	協働	体育振興部会	自・交

◆町民体育大会

目 標 町民体育大会に積極的に参加する。

内 容 ⇒大会に参加する。

継続して実施（参加）している事業です。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
実施中	A	協働	体育振興部会	自・交

子どもスポーツ大会

目 標 子どもスポーツ大会に積極的に参加する。

内 容 ⇒大会に参加する。

継続して実施（参加）
している事業です。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
実施中	A	協働	体育振興部会	交付金

【福祉生活】 地域で育てる 地域で守る んくもりの郷 木谷

◆地域住民が集まれる場所づくり（サロン・サークル活動）

目 標 さまざまな地域の人（子供～高齢者、外国人(妻)）が集まれるようにする。

内 容 ⇒住民が集まりやすい場所を検討し、サロン活動に準じたサークル活動として内容を検討する。

⇒サロン・サークル活動を実施する。

⇒参加者が実施者、運営者になるような体制をつくる。

アンケート項目【子育て支援】の
回答（2位）やワークショップの
活動計画を参考にしました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
短期	A	自主	福祉生活部会	交付金

◆子どもの居場所づくり

目 標 子どもの居場所づくりや子育てサポートを充実させる。

内 容 ⇒どのような居場所づくりができるか検討する。

⇒支援体制を整え、取り組む。

アンケート項目【子育て
支援】の回答（1位）を
参考にしました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
短期	A	協働	福祉生活部会	交付金

◆木谷地域敬老会（仮称）

目 標 木谷地域での敬老会を開催し、高齢者が参加しやすくする。

内 容 ⇒木谷地域での開催を目指して働きかける。

⇒支援体制を整え、敬老会を実施する。

ワークショップのアイデ
ィアや地域の高齢者の意
見を取り入れました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
短期	A	自主	福祉生活部会	交付金

◆高齢者訪問活動

目 標 高齢者の見守り活動を充実させる。

内 容 ⇒高齢者の世帯を訪問する。

継続して実施している事業です。
アンケート項目【高齢者サポ
ート】の回答（1位）でも意見があ
りました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
実施中	A	協働	福祉生活部会	交付金

◆あいさつ運動

目 標 あいさつ運動を通じて住民同士のつながりを深める。

内 容 ⇒小学生通学時にあいさつ（声かけ）をする。

⇒将来的には、地域全体にあいさつ（声かけ）ができるようにする。

継続して実施している事業です。
アンケート項目【防犯】の回答（2位）でも意見がありました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
実施中	A	自主	福祉生活部会	自己財源

◆保育所・小学校との交流会

目 標 子どもと大人の交流の場を充実させる。

内 容 ⇒ものづくり、作物の収穫・料理等を子どもと行う。

継続して実施している事業です。
アンケート項目【子育て支援】の回答（2位）やワークショップの活動計画でも意見がありました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
実施中	A	自主	福祉生活部会	自己財源

◆ふれあいサロン

目 標 高齢者のふれあう機会をつくる。

内 容 ⇒集会所や自宅で、飲食やものづくりを通して交流する。

継続して実施している事業です。
アンケート項目【高齢者サポート】の回答（2位）やワークショップの活動計画でも意見がありました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
実施中	A	自主	福祉生活部会	自己財源

【環境衛生】 災害に強く 若者が住みやすいまち

◆鳥獣害防止活動

目 標 鳥獣の被害を軽減させる。

内 容 ⇒鳥獣害対策として、地域でできることを検討する。

⇒できることから少しずつ実践する。

アンケート項目【環境・景観】の回答（1位）やワークショップのアイデアを参考にしました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
短期	B	協働	環境衛生部会	その他

◆農業振興（休耕地・空き家の調査・活用）

目 標 休耕地や空き家を活用し、農業振興や地域活性化につなげる。

内 容 ⇒休耕地や空き家の実態調査や活用方法について検討する。

⇒取り組める部分から実践する。

アンケート項目【環境・景観】の回答（2位）【交流定住対策】の回答（1位）やワークショップのアイデアを参考にしました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
中期	A	協働	環境衛生部会	その他

◆海などのクリーン作戦

- 目 標** クリーン作戦を通じて、美しい海岸を保つ。
- 内 容** ⇒海岸の美化活動の取り組み方法について検討する。
⇒美化活動を実施する。

アンケート項目【環境・景観】の回答（3位）やワークショップのアイデアを参考にしました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
短期	A	協働	環境衛生部会	その他

◆看板づくり

- 目 標** 環境美化の啓発につなげる。
- 内 容** ⇒環境美化啓発のための看板を作成し、必要箇所に設置する。

アンケート項目【環境・景観】の回答（7位）を参考にしました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
短期	A	自主	環境衛生部会	交付金

◆きれいなまちづくりキャンペーン

- 目 標** ゴミのない美しい地域にする。
- 内 容** ⇒ゴミ拾い等、清掃活動を実施する。

継続して実施している事業です。アンケート項目【景観・環境】の回答（5・6位）でも意見がありました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
実施中	A	協働	環境衛生部会	その他

【防災安全】 地域で守る 安心安全な 木谷

◆防犯灯の設置

- 目 標** 防犯灯を設置し、より安全な地域にする。
- 内 容** ⇒防犯灯設置の必要箇所の調査をする。
⇒設置の優先順位をつけ、防犯灯を設置する。

アンケート項目【防犯】の回答（1位）やワークショップのアイデアを参考にしました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
短期	A	協働	防災安全部会	自・交

◆パトロール実施

- 目 標** 未来を託す子供の安全を守る。
- 内 容** ⇒パトロール実施要綱を作成し、防災安全部会を中心にパトロール隊を編成する。
⇒警察と連携を取りながら巡回パトロールを実施する。

アンケート項目【防犯】の回答（3・4位）やワークショップの活動計画を参考にしました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
短期	A	自主	防災安全部会	交付金

◆防災マップ作成

目 標 住民の命を守れるような防災マップを作る。

内 容 ⇒津波や高潮時の危険個所を把握し、住民周知を図る。
⇒各区で話し合い避難場所を選定し、要介護者の把握と避難時の協力を依頼する。
⇒情報を地図に書き込み、防災マップを作成する。（必要箇所には、海拔表示などの目印を設置する。）
⇒そのマップをもとに訓練を実施する。

アンケート項目【防災】の回答（2位）やワークショップの活動計画を参考にしました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
中期	A	協働	防災安全部会	交付金

◆災害時連絡網の作成

目 標 災害時に備えた連携・協力体制を整える。

内 容 ⇒集落・区単位で、連絡網を作成する。

アンケート項目【防災】の回答（1位）やワークショップのアイデアを参考にしました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
短期	A	自主	防災安全部会	交付金

◆土のうづくり

目 標 災害時に備えた環境を整備する。

内 容 ⇒全区から数名参加して消防団と連携しながら土のうをつくる。

継続して実施（参加）している事業です。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
実施中	A	自主	防災安全部会	自己財源

◆地震・津波に備えた避難訓練

目 標 地震や津波発生時にスムーズな避難ができるようにする。

内 容 ⇒地域ごとに避難場所を決め、地震や津波を想定した避難訓練を実施する。

継続して実施（参加）している事業です。アンケート【防災】の回答（4位）でも意見がありました。

実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
実施中	A	自主	防災安全部会	交付金

◆危険個所の点検・解消

目 標 道路や急傾斜地、高潮などの危険個所を把握し、その解消を目指す。

内 容 ⇒危険個所の把握調査を行う。
⇒住民周知、改善の働きかけを行う。

アンケートの自由意見やワークショップの活動計画を参考にしました。

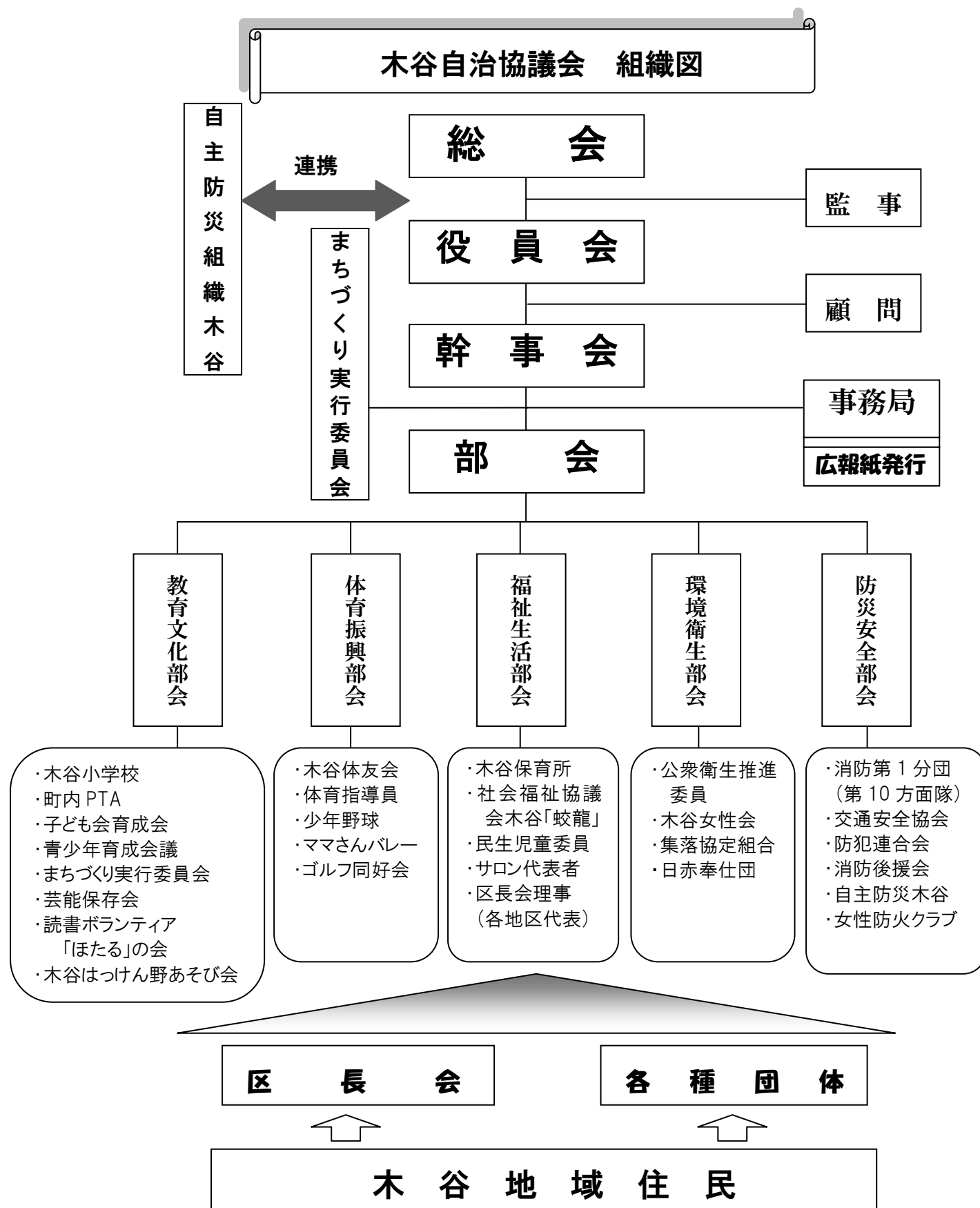
実施時期（目安）	優先順位	実施主体		財源
中期	A	協働	防災安全部会	その他

6 実施スケジュール

(検討 ← → 実施 →)

テーマ	活動・事業名 (★継続事業、☆新規事業)		活動・事業スケジュール(年度)						
			H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
教育文化	☆	人材バンクづくり		→	→	→	→	→	→
	☆	伝統行事の充実		→	→	→	→	→	→
	☆	木谷小学校教育支援活動		→	→	→	→	→	→
	★	教育講演会	→	→	→	→	→	→	→
	★	ふるさと探索	→	→	→	→	→	→	→
	★	ふれあい集会	→	→	→	→	→	→	→
体育振興	☆	健康(スポーツ)教室の開催		→	→	→	→	→	→
	☆	ウォーキングコースの設置・PR		→	→	→	→	→	→
	☆	木谷地域運動会		→	→	→	→	→	→
	★	市民スポーツ大会	→	→	→	→	→	→	→
	★	町民体育大会	→	→	→	→	→	→	→
	★	子どもスポーツ大会	→	→	→	→	→	→	→
福祉生活	☆	地域住民が集まれる場所づくり (サロン・サークル活動)		→	→	→	→	→	→
	☆	子どもの居場所づくり		→	→	→	→	→	→
	☆	木谷地域敬老会(仮称)		→	→	→	→	→	→
	★	高齢者訪問活動	→	→	→	→	→	→	→
	★	あいさつ運動	→	→	→	→	→	→	→
	★	保育所・小学校との交流会	→	→	→	→	→	→	→
	★	ふれあいサロン	→	→	→	→	→	→	→
環境衛生	☆	鳥獣害防止活動		→	→	→	→	→	→
	☆	農業振興 (休耕地・空き家の調査、活用)		→	→	→	→	→	→
	☆	海などのクリーン作戦		→	→	→	→	→	→
	☆	看板づくり		→	→	→	→	→	→
	★	きれいなまちづくりキャンペーン	→	→	→	→	→	→	→
防災安全	☆	防犯灯の設置		→	→	→	→	→	→
	☆	パトロール実施		→	→	→	→	→	→
	☆	防災マップ作成		→	→	→	→	→	→
	☆	災害時連絡網の作成		→	→	→	→	→	→
	★	土のうづくり	→	→	→	→	→	→	→
	★	地震・津波に備えた避難訓練	→	→	→	→	→	→	→
	☆	危険個所の点検・解消		→	→	→	→	→	→

7 組織体制



8. 役員名簿（案）63名

役 職 名	名 前	備 考
会 長	植 野 洋 文	
副 会 長	森 重 征 男	西之谷地区代表
	大 田 一 夫	赤崎地区代表
	増 田 典 生	郷地区代表
	中 岡 英 勝	区長会会長
部 長	吉 田 清 志	教育文化部（まちづくり実行委員会）
	尾 里 瑞 生	体育振興部（体友会）
	植 野 邦 子	福祉生活部（木谷地区社協蛟龍）
	大岡美恵子	環境衛生部（女性会）
	長 尾 准 司	防災安全部（消防OB会）
区 長 会	一 舍 恒 弘	区長会副会長
	有 田 隆 則	区長会理事
事 務 局 (会計含む)	折河美代次	消防後援会
	土 居 圭 子	自治会会計
	尾 首 豊	木谷地区社協蛟龍
	植 野 広 司	木谷地域センター長
	鳴川こずえ	木谷地域センター事務職
監 事	永 井 博 孝	西之谷地区代表
	森 田 明	赤崎地区代表
	大 下 康 之	郷地区代表
顧 問	土 居 敏 昭	前木谷自治会長
	矢 原 大 和	元木谷小学校校長

幹事会22名

【体育振興部】5名

役 職 名	名 前	備 考
理 事	末 田 初 博	木谷体友会
	大岡万寿美	スポーツ推進委員
	小 林 義 伸	少年野球
	山 住 真 澄	ママさんバレー
	重 信 正 和	ゴルフ同好会（木谷・郷・丸赤）

【防災安全部】5名

役 職 名	名 前	備 考
理 事	土 居 孝 徳	消防団第10方面隊第一分団
	升 森 通 夫	木谷消防後援会
	南 条 茂 昭	防犯連合会地域安全推進委員
	岡 下 優 子	交通安全協会安芸津支部
	栗 田 昭 子	女性防火クラブ

【教育文化部】 13名

役 職 名	名 前	備 考
理 事	藤田登喜子	木谷小学校校長
	田 中 一 哉	木谷小学校PTA
	古比谷雄二	安芸津中学校PTA
	古 本 強	赤崎地区子ども育成会会長
	矢 原 豊 祥	郷地区子ども育成会会長
	植野洋一郎	西之谷地区子ども育成会会長
	林 和 宣	青少年育成会議木谷校区代表
	光 保 博 文	木谷まちづくり実行委員会
	永 井 清 之	西之谷コミュニティー地域推進会議
	本 岡 貴 司	郷青少年育成会議
	平 岡 英 治	芸能保存会代表
	吉 田 直 代	読書ボランティア「ほたる」の会代表
	古 本 敦 子	木谷はっけん野あそび会

【福祉生活部】 9名

役 職 名	名 前	備 考
理 事	澤 谷 智 子	木谷保育所長
	植野真智子	木谷地区社協蛟龍（西之谷）
	元 川 純 子	木谷地区社協蛟龍（郷）
	光保智恵子	木谷地区社協蛟龍（赤崎）
	折 河 親 子	安芸津民生児童委員
	平 尚 美	サロン代表者
	西 田 敏 広	区長会（西之谷）
	元 川 繁 夫	区長会（郷）
	古 谷 昭 彦	区長会（赤崎）

【環境衛生部】 9名

役 職 名	名 前	備 考
理 事	幸 下 静 義	木谷公衆衛生推進委員会
	林 博 子	日赤奉仕団
	本 岡 厚 子	女性会
	折河美代次	神谷・防地集落協定組合
	中市後久夫	下の谷集落協定組合
	榎 幹 三	三畝集落協定組合
	内 田 強	西之谷集落協定組合
	大 成 秀 和	赤崎山中集落協定組合
	森 本 睦 夫	赤崎上集落協定組合

メ モ